ＮＯ．２　　平成１６年４月３０日

花を咲かせよう

文責　　須田

「どうですか？」　→　「いいです。」

授業参観ご苦労様でした。精一杯の姿を保護者のみなさんに示そうと教室経営や授業の準備（学級目標の掲示，掲示物の朱筆，授業の見どころ），大変ご苦労さまでした。きっと，保護者の皆さんにもその熱意が伝わったのではないでしょうか？

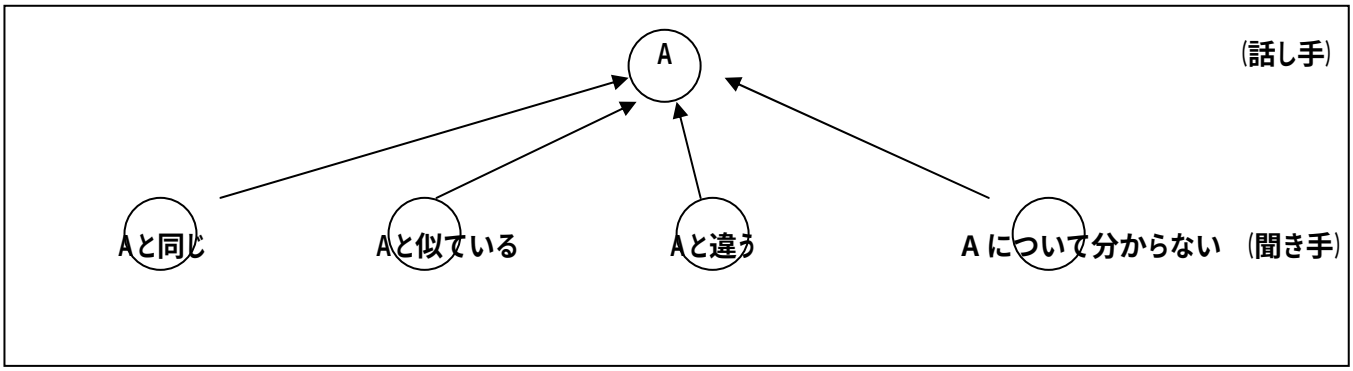
４，５月の学習の目標「聞く，話す」について今後，考えてみたいことをまとめてみました。

＜お互いが心を許せる人間関係を築くことが第一＞

話した内容についてどのように扱うと話し手と聞き手に対等な人間関係が生まれるのでしょうか？

一人が発言した内容について，個々のとらえ方は様々です。

どの子の考えも生かされて，初めて対等な人間関係を築くことができると考えます。



話し合う内容だけでなく，算数の答え合わせにおいても同様です。（これが，算数の答え合わせならば，「Aと同じ」の割合がかなり多くなるだけです。）

「どうですか？」と子どもが発表の後に発言している学級がありました。これは，「聞き手」を意識させる上でとても大切な話し言葉です。続けたいと思います。しかし，それに対する「聞き手」の反応が気になりました。「いいです。」という答え方をしている子どもが多くいます。

Bが多数の場合，「いいです。」と多くの子が声を出せば，少数のC，D，Eは消されてしまいます。かなりの勇気がないと言えません。これを続けると間違いが話しにくい学級の雰囲気が生まれます。

「いいです。」･･･私は，「同じです。」「似ています。」「違います。」を利用します。

「声を出して」･･･私は，声の大きさが学級の考えを支配することがあるので，声の代わりに挙手のルールを使います。